

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

四半期業務報告書 (2025年度 第4四半期)

2026年 3月



三浦下水道コンセッション株式会社

目次

1.事業実施状況	1
1-1.事業概要	1
1-2.運営体制	2
1-3.内部統制	4
2.業務実施状況	5
2-1.経営に関する実績	5
(1)環境対策	5
2-2.改築及び増築に関する実績	6
(1) 改築工事	6
(2) 増築工事	6
2-3.維持管理に関する実績	7
(1) 処理場・ポンプ場の維持管理	7
(2) 管路の維持管理	9
2-4.地域貢献に関する実績	9
(1) 地域貢献	9
(2) 広報活動実施計画	10
(3) 地元企業の利活用に関する事項	10
2-5.任意事業に関する実績	10
(1) 下水道資源を活用した高付加価値作物の生産事業	10
(2) AB-Cross を活用した省エネ水処理技術導入	11
(3)技術実証フィールドの提供	11

1.事業実施状況

1-1.事業概要

1. 事業名称

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業

2. 施設の規模等

(1) 1日当たり処理能力

8,050 m³

(2) 管路の総延長

59 km

(3) 処理区域

三浦市東部処理区

「本報告書は2025（令和7）年度 第4四半期を対象とする」



図 1-1.三浦市公共下水道（東部処理区）事業エリア

1-2.運営体制

運営体制は以下のとおり。

(1) 運営管理体制の強化

これまでに構築した運営管理体制をより強化するため、今年度は次の4点に取り組んでおり、進捗は以下のとおり。なお、今年度の取り組みにあたり、実施体制の強化を図った。まず、2025年6月より統括部長を変更し、前統括部長はプロジェクトディレクターに就任した。本役職は、現統括部長に対して、運営状況の指示、確認、助言を行う役割を担い、これまでの運営で得られた知見を活かしながら事業運営にあたることをねらいとしている。また、2025年11月には、組織運営の効率化およびリスク管理の強化を図るため、統括部長補佐を設置した。

① 業務の標準化

業務が属人化することを防ぐため、これまで作成を進めてきた管理部業務マニュアルについて、業務ごとの手順や必要事項を反映し、概ね整備を進めた。併せて、来年度に予定している全社的なマニュアル整備に向けた準備も進めた。

② 運営管理経験者による新任職員の研修育成

人が入れ替わっても安定した業務の遂行を行うため、第3四半期に続き運営管理経験者が管理部の新任職員の教育を実施した。

③ 地元企業等の育成支援として、当社及び株主企業による研修・訓練プログラムの実施

10/1、株式会社オガワに対して、酸素欠乏症等についての防止対策に関する研修を実施した。

④ 遠隔監視システム、デジタル情報基盤などのICT投資による業務の効率化

- ・デジタル情報基盤については、令和6年度工事情報等を登録した。
- ・遠隔監視システムについては、WA本社危機管理コントロールセンターにて24時間体制で運用中である。
- ・水質自動制御システムは、送風機設備を更新後の自動制御に向けて、データ解析などの準備を進めている。

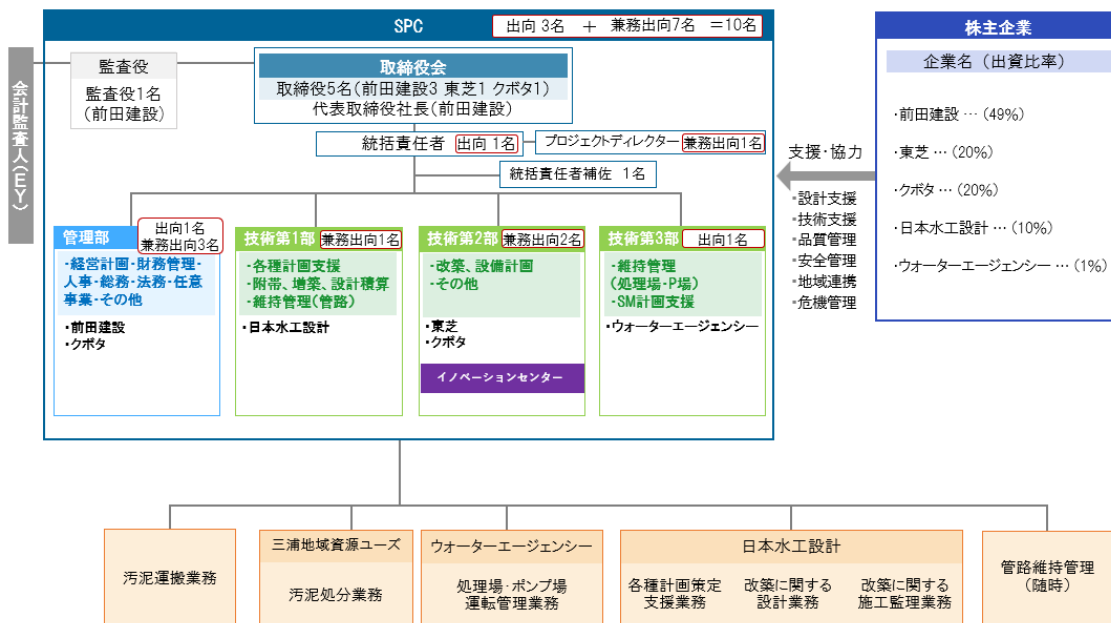


図 1-2.三浦下水道コンセッション株式会社の組織体制

前田建設	東芝	クボタ	日本水工設計	ウオーターエージェンシー
<ul style="list-style-type: none"> コンセッション運営の知見提供 土木・建築の改築計画等の策定支援 事業運営支援 	<ul style="list-style-type: none"> 重電設備企業の知見提供 電気設備等の最適化・改築計画等の策定支援 改築・修繕支援 	<ul style="list-style-type: none"> 水環境設備企業の知見提供 機械設備等の最適化・改築計画等の策定支援 改築・修繕支援 	<ul style="list-style-type: none"> 水関連コンサル企業の知見提供 ストックマネジメント計画等各種計画策定支援 計画策定・設計 	<ul style="list-style-type: none"> 本施設維持管理等の知見提供 運転管理業務、維持管理・修繕計画等策定支援 運転管理

(■ : 役割 ■ : 責任)

図 1-3.株主企業の責任・役割

(2) 災害時・緊急事態発生時の防災体制

災害時や緊急事態の発生時には、構成員・地元企業等との一体的な対応体制を構築し、復旧活動の対応を行う。巨大地震やその影響による津波、台風や、豪雨等による高波、高潮等を想定し、三浦市 BCP 及び国交省下水道 BCP 策定マニュアルを踏まえ策定した本事業の BCP を、いつ発動させても対応が可能な状態を維持した。

実施予定の各種訓練の実施状況は以下のとおりである。

訓練名称	訓練内容	予定時期	実施済
BCP 教育訓練	講習会等を開催し、BCPの位置付けや内容及び活用方法についての MSC 職員の理解促進を図るとともに、BCP の見直しに向けた意見収集の場として活用する	4月	○ (4/24)
安否確認	・MSC 職員は、携帯電話やメール等により安否を連絡	4月	○

訓練	・安否確認担当者は、安否確認の回答をとりまとめ		(4/25)
参集訓練	・地震（震度 6 強）を想定した SPC 社員の非常参集 ・勤務時間外（早朝 7 時あたり）に、震度 6 強の地震が発生し、市内交通機関が利用できない状況を想定し、MSC 職員が自宅や通勤途中から徒歩又は自転車により東部浄化センターに参集または移動経路を確認する訓練	9 月	○ (9/19)
BCP 対応訓練	・株主企業である前田建設の BCP 訓練に参加 ・安否確認担当者は、安否確認の回答をとりまとめ	11 月	○ (11/28)
図上訓練	・非常時対応計画等の対応手順等、訓練シナリオを事前に提示して、 手順通りに対応を行う ・処理場、ポンプ場維持管理業務委託業者と合同訓練を実施	9 月	○ (9/25)
実地訓練	・東部浄化センター、金田中継センターにおける緊急点検調査及び措置における実地訓練	9 月	○ (9/25)
	・管路の緊急点検調査及び措置の実地訓練		○ (9/25)
情報伝達訓練	・市下水道対策本部と SPC 災害対策本部との情報伝達訓練 ・構成企業、委託業者との情報伝達訓練	2 月	○ (2/17)

(3) 委託等の実績

三浦市公共下水道（東部処理区）運営事業 年度経営計画書（2025（令和 7）年度）
（以下、「2025 年度経営計画」とする。）に記載のとおり、下記企業に業務委託を行った。

運転管理業務委託	: (株)ウォーターエージェンシー
計画策定支援委託、設計施工監理業務委託	: 日本水工設計(株)
汚泥処分業務委託	: 三浦地域資源ユーズ(株)
汚泥収集運搬業務委託	: 田中石材土木(株)
管路維持管理委託	: 管清工業(株)

1-3. 内部統制

内部統制の基本方針、企業行動憲章を定め、内部通報窓口を設置。

また、透明性と公正性が高いコーポレートガバナンスと、企業倫理に優れた内部統制として管理部と技術部（3 部門へ分掌）を設置。

- ・1 次モニタリングとして、業務改善会議（1 次）を毎月実施。

・2次モニタリングとして、第4四半期業務改善会議（2次）を2026年4月に実施予定としている。

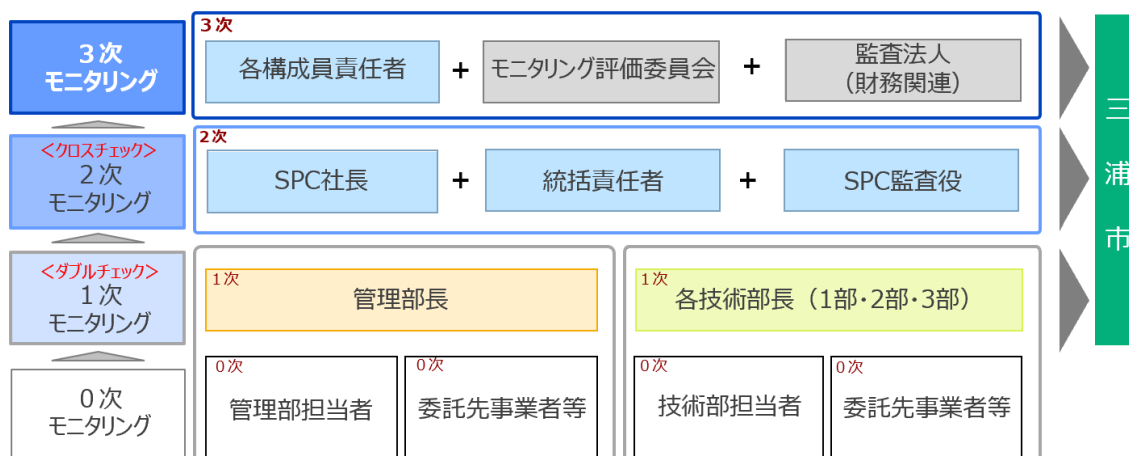


図 1-4.セルフモニタリング体制図

会社法、社内規程に基づき取締役会を実施した。

・取締役会を2月に1回実施(2/24)

2.業務実施状況

2025年度経営計画で策定した計画の実施状況は以下のとおり。

なお、後述する各節で示す計画と実績の凡例については、以下のとおり。

【凡例】

計画：2025年度経営計画で策定した計画

実績：2025年度第4四半期の実績

2-1.経営に関する実績

(1)環境対策

計画	太陽光発電設備により、東部浄化センターの使用電力のうち約20%を賄うことを想定している。 計画予測値の精度を実測検証することにより定量的に電力購入量の削減効果をモニタリングする。
実績	第4四半期（1月～3月）において、太陽光発電設備により、東部浄化センターの使用電力のうち約24%を賄った。

2-2.改築及び増築に関する実績

(1)改築工事

改築工事について、本四半期における計画及び実績は以下の通り。

工事対象		概要	計画及び実績	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・No.1-1 散気装置ユニット ・No.1-5 散気装置ユニット ・No.1 初期用送風機ユニット ・No.2 初期用送風機ユニット 	機 械 工 事 ・反応タンク設備の更新 ・2 か年工事	計 画	第 4 四半期に工事契約予定
			実 績	契約完了
2	<ul style="list-style-type: none"> ・No.3 送風機ユニット ・1 系水処理設備コントロールセンターと補助継電器盤機能増設 ・送風機更新に伴う監視制御装置機能増設 	電 気 工 事 ・反応タンク設備の更新に伴う電気設備工事 ・2 か年工事	計 画	第 4 四半期に工事契約予定
			実 績	契約完了

工事対象		概要	計画及び実績	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・受変電ユニット-2 ・受変電ユニット-3 	・受変電設備の更新 ・2 か年工事	計 画	第 4 四半期に工事契約予定
			実 績	契約完了
4	蓋交換 (水処理棟)	蓋交換：12 箇所	計 画	第 1 四半期に検査予定
			実 績	検査完了
5	本管改築 (東部処理区)	管更生：110m	計 画	第 2 四半期に検査予定
			実 績	検査完了

(2)増築工事

増築工事について、本四半期における計画及び実績は以下のとおり。

工事対象		概要	計画及び実績	
1	舗装本復旧 (金田岩浦地区枝線)	舗装 約 300m ²	計 画	第 4 四半期に検査予定
			実 績	検査完了
2	本管 (下宮田馬場地区枝線)	開削 約 60m	計 画	第 4 四半期に検査予定
			実 績	検査完了
3	本管 (上宮田岩井口地区枝線)	開削 約 10m	計 画	第 4 四半期に検査予定
			実 績	検査完了

2-3.維持管理に関する実績

(1)処理場・ポンプ場の維持管理

計画	<p>(1) 体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遠隔監視システム導入により(株)ウォーターエージェンシー（本社）危機管理コントロールセンターでの監視体制を構築することで、設備故障や水質管理等の異常発生時におけるバックアップ体制の強化を図る。 ・凝集剤添加設備設置によりタンクローリー車による薬品の安定供給ならびに薬品保有量を確保することで放流水質（全磷）の安定化を目指す。 <p>(2) 水質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放流水質基準の遵守。 ・水処理設備への計測装置や制御装置を設置したことにより、安定した水質確保と省エネの両立を期す。 <p>(3) 汚泥管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脱水ケーキ発生量の軽減、また悪臭等の苦情原因とならないよう、脱水汚泥の含水率を 79%以下とする。 <p>(4) 保守点検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル情報基盤を活用し、日々の点検・調査結果や故障・修繕履歴、消耗品保管状況等を集約管理。 ・集約した維持管理データを可視化し、機器の異常傾向など設備状態の見える化を図り、より効果的な改築・修繕計画を立案・実行。 ・年度経営計画書に記載の保守点検スケジュールどおりに点検。
----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>(5)労働衛生管理 ・「労働災害ゼロ」「車両事故ゼロ」を目指し、日常からの安全衛生教育と年 1 回安全パトロールを実施。 ・発注工事において、株主企業による安全パトロールを実施。</p> <p>(6)エネルギー管理 ・水質自動制御システムの導入に伴う計測器の数値をもとに各態窒素（硝酸性窒素・アンモニア性窒素）を把握することで、より最適な運転管理を実施し、電力消費量の削減を目指す。 ・送風機へのスマートメーターの設置により、運転方法ごとの電力使用量を詳細に把握することで省エネルギーにつながる運転管理手法を検証し、消費電力が少ない最適な運転条件を導き出す。</p>
実績	<p>(1) 体制 ・遠隔監視システムは、WA 本社危機管理コントロールセンターにて 24 時間体制で運用中。 ・放流水質（全磷）の安定化のため、凝集剤添加設備を運用中。</p> <p>(2) 水質管理 ・放流水質基準未達なし。 ・水質自動制御システムは、送風機設備を更新後の自動制御に向けてデータ解析などの準備を進めている。</p> <p>(3) 汚泥管理 ・脱水汚泥の含水率について、79%以下を達成。</p> <p>(4) 保守点検 ・維持管理支援ツールを活用した定期点検の実施及びデータ蓄積を進めている。 ・故障・修繕履歴、消耗品保管状況等の集約管理方法を検討。 ・機器の異常傾向など設備状態の見える化を図り、より効果的な修繕計画の立案・実行を検討。 ・年度経営計画書に記載の保守点検スケジュールどおりに点検を実施。</p> <p>(5) 労働衛生管理 ・労働災害ゼロ、車両事故ゼロを達成。 ・労働災害、車両事故ゼロ継続のため、計画的に安全衛生教育を実施。 ・1 月に回転機器の事故防止に関する教育を実施。 ・2 月に化学物質取り扱い作業における保護具着用に関する教育を実施。 ・3 月に保護具、測定機器の一斉点検を実施。</p> <p>(6) エネルギー管理 ・水質自動制御センサー値をもとに最適な送風量を検討している。 ・送風機用スマートメーターによる電力使用量データの蓄積を進めている。</p>

(2) 管路の維持管理

管路維持管理について、計画に対しての本四半期の実績は下記のとおりである。なお、2025年6月時点の計画数量に対し、マンホール蓋点検工、マンホール目視点検工の減は過年度調査済み及び数量の計上方法の見直しによる。管口カメラ箇所は比較的布設年度の古い上宮田団地内の調査を追加で実施した。取付管調査は見積もりによる調整が困難であったため次年度以降に繰り越すものとする。

維持管理項目		2025年度計画 (6月見直し)	本四半期の実績	
管きよ点検				
点検	マンホール蓋点検工	75基	70基	左記数量を第4四半期に2業務委託により実施。
	マンホール目視点検工	696基	695基	
	管口カメラ	292基	298基	
スクリーニング調査	φ450以下	6,648 m	6,648 m	
	φ500～φ700	—	—	
	φ800以上	—	—	
取付管調査	取付管カメラ調査	200箇所	0箇所	
維持修繕				
	巡視	17 km	第3四半期に完了。	
	伏越し清掃	—	—	
	本管修繕	—	—	
	マンホール修繕	—	—	
	公共ます修繕	—	—	

第4四半期に新たに発生した突発修繕はなかった。

第4四半期中、市からの連絡に基づく住民通報を含め2件あり、いずれも対応完了している。

- ・下水道設備工事に関する問い合わせ1件：現場作業体制、作業時の注意事項を指示。
- ・マンホール蓋ガタツキ1件：現地を確認し、解消されたことを確認した

2-4. 地域貢献に関する実績

(1) 地域貢献

計画	①職員による東部浄化センター周辺の海辺の清掃活動を実施。 ②三浦地域で開催されるイベントへ参加し、本事業のPR活動を実施。
実績	①第1四半期(5/29)に実施済。 ②11/16に開催したみうら市民まつりに出展した。 輪投げ、水実験などを通じて、市民の方々に下水道に触れていただいた。

(2) 広報活動実施計画

計画	①2025年4月～2026年3月までの間に1回以上、地域住民や地元教育機関向けに処理場施設見学会を開催。 ②三浦市下水道事業のPRや魅力向上に貢献するため、デザインマンホール設置の検討を開始。
実績	①第1四半期(5/26)に三浦初声高等学校都市農業科の生徒を対象とした施設見学会を実施。地域住民向けの見学会を2月に予定していたが、降雪予報のため中止。来年度に開催を予定している。 ②デザインマンホール設置に向けて、地元企業に営業活動を実施中。

(3) 地元企業の利活用に関する事項

計画	・改築・増築工事は、6件が予定されており、以下3件(50%以上)を地元企業へ発注することを目標とする。 ・令和7年度 下宮田飯森地区マンホール蓋交換工事 ・令和7年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事 ・令和7年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事 ・維持管理関連修繕工事のうち、本管、マンホール、公共汚水ますの修繕については地元企業へ発注することを目標とする。
実績	・地元企業の応札がなかったため、地元企業へ発注した工事は無かった。 ・令和7年度 上宮田岩井口地区枝線管きよ増築工事と令和7年度 下宮田馬場地区枝線管きよ増築工事は第3四半期に発注を行った。 なお、令和7年度 下宮田飯森地区マンホール蓋交換工事は、関連する県発注の道路補修工事との関係で今年度は発注しない。

2-5. 任意事業に関する実績

(1) 下水道資源を活用した高付加価値作物の生産事業

計画	①下水熱を活用した2棟の栽培施設で、作物の栽培実証実験を行う。栽培
----	-----------------------------------

	<p>や収穫物の加工検討において、三浦初声高等学校都市農業科や地元関係者と連携して取り組む。</p> <p>②事業の第一段階であるフェーズⅠの最終年度（2026年度）に向け、フェーズⅠに実施した栽培実証実験の成果について、社内での検証と学識経験者による評価を行う。検証結果をもとにフェーズⅡ（2027年度）以降の事業方針について検討する。</p>
実績	<p>①引き続き、栽培施設での栽培実証実験を実施。三浦初声高校都市農業科生徒との現地作業会を行った。</p> <p>②特になし。</p>

(2) AB-Cross を活用した省エネ水処理技術導入

計画	2025年度以降の国交省 AB-Cross FS 調査の応募に向け、試験条件と試験装置仕様の検討を進め、2026年度（計画時点）から RBC（回転繊維ユニット）パイロットプラントの導入検討を進める。
実績	<p>AB-Cross FS採択を想定し、2026年2月の提案書提出に向けて、関係者間での各種協議（実証実験における役割分担等）を実施したが、当該応募テーマはAB-Cross FSに採択されないことが判明した。</p> <p>計画見直し結果、革新性のある別の提案アイデアも無いため、次年度以降の提案も断念する方針とした。</p>

(3) 技術実証フィールドの提供

計画	下水道分野の先進的技術保有者に、技術実証の場として運営施設を提供し、下水道運営に有用な新技術の開発を目指す
実績	<p>1社の実証結果について報告会を実施。</p> <p>HPを通じて新規応募が1社からあり面談を実施。実証内容検討中。</p> <p>令和7年度の実証結果2件についてHPに公開。</p>